

林業試験場報告 第五

金平, 亮三

臺灣總督府殖産局林業試験場臺北本場 : 技師

小野 三郎

臺灣總督府殖産局林業試験場嘉義支場 : 技手

稻村, 時衛

臺灣總督府殖産局林業試験場恒春支場 : 技師

山田, 金治

臺灣總督府殖産局林業試験場恒春支場 : 雇

他

<https://hdl.handle.net/2324/1523944>

出版情報 : 殖産局出版. 104, 1918-03-28. Bureau of Productive Industries Government of Formosa
バージョン :
権利関係 :

七、筍ノ害蟲ニ就キテ

牧 茂 市 郎
林 學 周

一、緒 言

臺灣産竹類ハ四屬二十一種ノ多キニ達スレドモ筍ノ食用ニ供シ得ベキ種類ハ唯僅カニ左ノ四種ニ過ギス

一、りよくちく *Bambusa Oldhami* Munro. 土名 綠竹

二、まぢく *Dendrocalamus latiflorus* Munro. 土名 蔴竹

三、たいわんまだけ *Phyllostachys Meki noi* Hay. 土名 桂竹仔

四、まうそうちく *Phyllostachlys mitis* Riv. 土名 茅茹竹

此外せきちく石竹仔、じんめんちく人面仔ノ二種ハ筍ノ味美ナルモ前者ハ産額極メテ少ナク後者ハ硬キニ失シ林産物トシテ、列記スル價值アルモノニアラズ故ニ之ヲ省畧セリ、而シテりよくちくとたいわんまだけトハ實ニ本島固有ノ種類ナリトス

本島ニ於ケル竹林ノ面積ハ明カナラザルモ頗ブル廣大ナルモノノ如ク保安竹林ノミニテモ大凡一萬八千甲歩ニ達スト云フ而シテ之等保安竹林及私有竹林ヨリ産出スル筍モ亦頗ブル多額ニ達スベク南投廳林杞埔竹林組合ガ大正五年度ニ取扱ヒシ生筍搬出數量ハ實ニ百四十萬六千三百

斤其價額百斤六圓乃至十二圓ナルヲ以テ平均九圓ト假定シ十二萬六千五百六十七圓ニ達セリ此
 外同組合ヲ通過シテ搬出セシ筍千千三十一萬五千八百八十四斤百斤十五圓乃至二十二圓アリ之ヲ
 生筍ニ換算スレバ千九百四十萬七千二百六十斤トナルヲ以テ前記生筍ニ加算シ二千八十八萬三千
 五百六十斤トナル譯ナリ是ヲ以テ之ヲ見レバ臺灣全島ノ筍ノ産額ハ頗ブル多量ナルベキハ想像
 シ得ベキコトニ屬ス如斯筍ハ林産物中重要ノ地位ヲ占ムルモノナルヲ以テ其害蟲ヲ調査研究ス
 ルハ職ニ林業ニアルモノノ當ニ爲スベキ事項ナリト信ズ

抑モ本島産ノ筍ハ年中交互ニ産出スルヲ以テ秋冬初春ノ候生筍ヲ温帶地ニ搬出スレバ珍重セ
 ラルベク正月用生果物トシテ内地ニ移出スル向モ少ナカラズ夫ノ植物検査規則實施以來先ヅ柑
 橘類其鐵槌ヲ受ケ近クハ瓜類ノ移出不可能トナリシ今日正月用フレゼントトシテ將來アルモノ
 ノ一ハ生筍ナリトス昨年末生筍ノ價格上騰セル一因亦此ニ存スルナリ

植物検査所ニ於テ本島産植物及其部分ガ嚴密ナル検査ヲ受クルハ主トシテ内地ニ産セザル害
 蟲ノ本島ニ存在スルニ依ルモノニシテ移出物ノ何處カニ害蟲潜伏シテ之ト共ニ移出セララルガ
 爲ナリ害蟲ノ種類ヲ知り其習性ヲ極メ潜伏所ヲ正シ害蟲ノ存在セルモノヲ移出セザランカ其處
 ニ何等ノ問題モ惹起セザルナリ此意味ニ於テ小官等ハ未ダ生筍ガ問題トナラザルニ當リ其害蟲
 ヲ調査シ其潜伏所ヲ究メントスルナリ移出業者ノ特ニ茲ニ注目センコトヲ切望ス

本島産生筍ノ害蟲ニ左ノ三種アリ内一種ハ本島固有ノモノナリトス

一、たいわんおほざうむし

二、たけのこみばへ(著者新稱臺灣固有)

三、ひげながへりかめむし

コノ三種ハ何レモ内地ニ産セザルモノ第一種ハ卵子若シクハ幼蟲ノ形ニテ、第二種ハ卵子幼蟲若シクハ蛹ノ形ニテ、第三種ハ卵子ノ形ニテ生筍ニ附着セリ、今左ニ各種生筍ノ産出期ト之等害蟲ノ加害時期トヲ對照セン

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十 二	月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月				
		① ① ① ① ① ② ② ② ② ② ③ ③ ③ ③ ③	リ よ く ち く		
		① ① ① ① ① ② ② ② ② ② ③ ③ ③ ③ ③	ま ち く		
		① ① ① ② ② ② ② ② ③ ③ ③	たい わん ま だ け		
		① ② ② ② ③	ま う そ う ち く		
			摘		
			要		

ハ主筍ノ産出時期ヲ示スモ小

數ノ筍ハ其前後不齊ニ發生ス

①たいわんおほざうむしノ加害

②たけのこみばへノ加害

③ひげながへりかめむしノ加害

注意 此表ハ大體ニ於テ正シキモ筍ノ産出害蟲ノ經過共ニ多少不整齊ナルモノアルヲ以テ細

微ノ點マデ間違ナキヲ保シガタシ

以上三種害蟲ノ外ニ一種ノ蚜蟲アレドモソハ籐ヲ完全ニ被ムレル所謂筍(食用)ヲ害スルコトナク唯一部分籐ノ剝脱セルガ如キモノ換言スレバ若竹ニ近キモノ及ビ若竹ヲ害スルモノナルヲ以

テ之ヲ附加セザリキ

要スルニ生筍ノ害蟲調査ハ(一)生産額頗ブル大ニシテ林業上重要ノ位置ヲ占ムルモノナルコト
(二)移出品トシテ有望ナルモノナルコトノ二見地ヨリ必要ナルモノナリ

ニたいわんおほざうむし

學名 *Cyrtotrachelus longipes* Fab.

分類學上ノ位置 鞘翅目 象鼻蟲科

名稱及分布

臺灣語ニテハ之ヲすんくう筍龜(福建語)又ハちゆつすんくう竹筍龜(廣東語)トイヒ其幼蟲ヲすんちゆらん筍蟲(廣東語)トイフ本蟲ヲ始メテ記載シタルハ有名ナル昆蟲學者ふあぶりしあす氏ニシテ其大著 *Entomologica Systematica* I. b. ニ *Curculio longipes* トシテ發表セリどのばん氏ノ著支那ノ昆蟲ニハ *Carandra longipes* Fab. トシテ掲載セラレタリ其後昆蟲分類學ノ發達ニ伴ヒ *Prolosenus* ナル屬ニ編入セラレタルモ最近一般ニ本屬ニ入ルルガ如シ

理學博士松村松年氏ハ日本千蟲圖解第三ニたいわんおほざうむしナル和名ヲ附シ本蟲ヲ掲載セリどのばん氏ノ支那ノ昆蟲及すてつびんぐ氏ノ印度森林昆蟲學甲蟲編ノ圖版ニ依レバ本蟲ノ前胸脊ニ黒色斑紋存在セズシテ臺灣産ノモノト異ナルガ如キモ後者ノ記載ニハ明カニ黒斑ノ存在ヲ認ムベケレバ小官等ハ松村松年博士ノ意見ト同一ノ意見ノ下ニ本種ナリト同定スルモノナリ

成蟲ノ記載

栗色、黃褐若シクハ赤褐色ヲ呈セル大形ノ象鼻蟲ナリ、頭部ハ殆ンド黒ク、小ニシテ其大半ハ前胸脊ノ襟狀部ニ被ハレ側下面ニ亘リテ大ナル複眼アリ脊面ニテハ廣ク離レ腹面ニテハ近ク相接シ腎狀ヲ呈シ光澤アル黒色ナリ、口吻ハ長大其長サ前胸ノ幅ト殆ンド等シク前方ノ大部分、下面及側面ハ黒ク、四角柱狀ニシテ上方ニ疣狀ノ突起ヲ縱列ス先端ハ少シク擴ガリ基部ハ僅カニ膨大ス、觸角ハ膝狀ヲ呈シ光澤アル黒色、第一節ハ以下ノ七節ノ和ニ殆ンド等シク僅カニ棍棒狀ヲ爲ス、第二節ヨリ第七節マデノ六節ハ何レモ小ニシテ念珠狀ニ連結ス、末端節ハ大ニシテ人類ノ足狀ヲ呈シ其内側ニ灰色ノ短軟毛ヲ密生ス、前胸脊ハ圓ク膨起シ微小ノ點刻ヲ散在シ後縁ノ中央ニ黒色ノ大紋アルヲ常トスルモ稀ニ小ナルカ若シクハ之ヲ缺グモノアリ(五十二匹ノ標本中一匹ノ無紋者アリキ)前胸脊ノ前縁ニハ襟狀部アリテ頭部ノ大半ヲ被ヒ其下側縁ニハ黃褐毛ヲ密生ス翅鞘ハ前胸ヨリ長ク尾端ニ達セズ末端ハ深ク三角形ニ刳ラレ基部ハ廣ク翅端ハ稍狭小トナル翅鞘ノ基部及末端ハ僅カニ黒ク翅ノ外側ニ淡キ黒色縱線ヲ備へ内縁ニ沿ヒ又黒色縱線アリ之ニ平行シテ六條ノ縱溝ト前縁ニ近ク三箇ノ點刻線トアリ、體下ハ稍黒色ヲ帶ビ雌ノ産卵管ハ管狀ヲナシ著シク内面ニ彎曲ス肢ハ長大殊ニ前肢ニ於テ然リトス跗節及腿節ノ基部ト末端トハ黒色ナリ、脛節ノ内面ニハ黃褐ノ長毛ヲ簇生シ先端ニ鎌狀ノ一刺ヲ供フ、跗節ハ四節ヨリ成リ第四節最モ長ク第三節ハ倒心臟形ヲナス體長雌一寸四分内外、口吻四分、雄一寸一分内外ニ達ス

卵子ノ記載

卵子ハ長サ一分四厘幅四厘内外ニシテ長橢圓淡黃色ナリ表面ハ平滑ニシテ斑紋ナシ

幼蟲ノ記載

幼蟲ハ黃白色ヲ呈シ無脚有頭ナリ、孵化當時ヨリ老熟ニ至ルマデ形態上ニ大差ヲ生ズルコトナク充分成長セルモノハ體長一寸八九分、幅八九分ニ達ス、蟲體ハ稍腹面ニ彎曲シ最大部ハ中央ヨリモ少シク後方ニ位ス、尾端ニハ匙狀ノ突起アリ、頭部ハ幾丁質ヨリナリ長サ三分五厘、幅其三分ノ二ニ達シ脊面ヨリ見レバ橢圓形中央ノ縫合線及其兩側ノ一線ハ淡ク其他ハ暗褐ナリ、口部ノ直上ニ位スル間顛頂板ハ稍淡色ニシテ中央ニ近ク二條ノ縱溝アリ、此兩側ニ三箇ノ凹點アリテ其中央ヨリ夫々剛毛一本ヲ生ズ、顛頂板ハ全體淺キ網狀ノ刻目アリ、大腮ハ歪三角形ニシテ先端ニ二齒ヲ供ヘ、黑色平滑ナリ、上下唇ハ短小、褐毛ヲ生ズ、眼及觸角ヲ缺ギ、下唇鬚及小腮鬚ハヨク發達ス、體ハ十三節ヨリ成リ互ニ相收縮シ重ナリ合ヘルガ如キ觀ヲ呈ス、胸部三節ニハ疣狀ノ幾丁板散在シ、尾端ノ匙狀突起物ニハ剛毛ヲ有シ其脊面ニアル二箇ノ肉隆ニモ剛毛ヲ具フ、氣門ハ第一節及末端節ニアルモノノミ大ニシテ其他ハ頗ブル小ナリ

蛹ノ記載

蛹ハ體長一寸二分、幅五分内外ニ達シ全體汚黃色、口吻及觸角ハ前胸ノ下腹面ニ折レ曲リ稍濃色ナリ、口吻ノ基部及頭頂ニハ小突起ヲ散布シ剛毛ヲ具フ、前胸脊ノ中央ニハ一縱溝アリ、脊面ノ後縁ニ近キ中央部及側面ニハ灰色ノ斑紋ヲ有ス、前胸脊ニハ倒ヘノ字形ニ竝ベル十二箇ノ小顆粒ヲ有シ、後側縁ニ近ク顆粒群アリ、中胸脊ハ小ニシテ後縁ノ中央鋤先狀ニ突出ス、翅鞘ニハ明カナル九條ノ縱溝アリ、腹脊ノ各節ニハ四乃至五對ノ小突起物横列シ、末端節ハ三角形ヲナシ、脊腹二葉ニ分ル氣門ハ黑色楕圓形ナリ

經過習性

本蟲ハ四月ヨリ九月若シクハ十月ニ亘リテ各種ノ筍ニ産卵加害スルモ其最モ加害ノ激甚ナルモノハちやうしちく *Bambusa dolicholada* Hay. 土名長枝竹^{チヤウキチク}ばあはむちく *Bambusa* sp. 土名有成仔^{イヘイサイ}及べいしちく *Bambusa* sp. 土名米節竹^{メセツチク}ニシテりよくちく、たいわんまだけ、まちく等ハ第二位ニアルモノナリ産卵セントスル雌蟲ハ先ヅ筍ノ先端ヨリ一寸以下三四寸以上ノ所ニ口吻ヲ挿入シ長サ二分ヨリ一寸ニ至ル(普通ハ二分乃至四分)縦裂孔ヲ作り然ル後之ニ産卵管ヲ入レ卵子ヲ一粒ヅツ稀ニ二粒産附ス、卵子ハ四五日ニシテ孵化シ幼蟲トナリ盛ンニ筍ノ莖部ヲ食害ス

若シ本蟲ガ丈低キ筍即チ吾人ガ食用ニ供スル程度ノ太サノモノニ産卵シタル場合ハ之ヨリ出デタル幼蟲極メテ盛ンニ之ヲ食害シ旬日ナラズシテ盡スニ至リ筍ハ依然トシテ太サヲ増シ難ク籜ノミ枯色ヲ帯ビテ殘存シ所謂爛筍^{ランサン}トナリ終リ迅速ニ成長シタル幼蟲ハ筍ノ先端一寸乃至二寸ヲ切り落シ次ニ逆轉シテ一寸五分乃至二寸ノ下ヨリ嚙ミ切り籜ノ圓筒ヲ作り其内ニアリテ地上ニ落下シ蓑蟲ノ如ク此圓筒形ノ巢ヲ負ヒテ匍匐シ地下適當ナル場所ニ至リ蛹化ス

若シ本蟲ガ丈高キ筍ノ先端部ニ産卵シタル場合ニハ前記同様ノ方法ニテ其先端部ノ一尺餘ヲ喰ヒツクシ上端ト下端トヲ喰ヒ切り一寸五分乃至二寸ノ籜ノ圓筒ヲ作り其内ニアリテ地上ニ落下シ地下適當ナル處ヲ擇ビ蛹化ス而シテ其被害ハ所謂死尾竹^{シビエチク}トナリ先端ノ枯死シタル竹トナルナリ

本蟲ハ午前九時ヨリ十二時頃迄最モヨク活動シ竹上ニ止マリ或筍ニ産卵ス、又暫々高キ竹ノ先端ニ上レルコトアリ

本蟲ガ竹林ニ及ボス損害ハ頗ブル大ニシテ等閑ニ附スベキモノニ非ラザルナリ、カノ食用ニ供

スル筍ヲ採集スル竹類即チリよくちく、まちく、たいわんまちく等ニアリテハ多クハ爛筍式ノ被害ニシテ死尾竹トナルモノ少ナシ、夏季ニ於テハ市場ニ販賣セル筍ニ本蟲ノ卵子ヲ發見スル場合稀ナラザルナリ、まうそうちくハ被害稍少ナクしちく最モ被害僅少ナリトス、ばわはむちく及べいしちく等ノ如キハ被害激甚一驚ニ値スルモノアリ

本島人ハ本蟲ノ成蟲ヲ捕ヘ來リ頭ヲ拔キ去リ胸腹部ニ鹽ヲ填メ火ニ炙リテ食用ニ供シ又藥用トスルコトアリ、小兒ハヨク成蟲ノ吻部ヲ糸ニテ縛リ玩具トナス

驅除豫防法

適當ナル驅除豫防法ナシ、今後ノ研究ニ待タザル可カラザルナリ、目下行ハレ得ル驅除法トシテハ小兒ヲシテ成蟲ヲ採集セシメ(午前九時ヨリ〇時マデヲ可トス)之ヲ調理シテ食用ニ供セシムルコトト枯色ヲ帶ビタル筍即チ爛筍ノ初期ノモノヲ蒐集シテ焼却スルコトノ二法アルノミ、生筍ヲ内地ニ移出セントスル場合ニハ冬季ヲ除ク外ハ裂孔アル筍即チ本蟲産卵ノ疑アルモノヲ一箇一箇撰リ分クルヲ可トス

引用書類

松村松年 日本千蟲圖解 第三

Fabricius:—Entomologica Systematica 1. b.

Donovan:—Insects of China.

Stebbing:—Indian Forest Insects of Economic Importance. Coleoptera.

三たけのこみば(新稱)

學名 *Acroceratitis plumosa* Hendel.

分類學上ノ位置 双翅目 果實蠅科

名稱及分布

本蟲ハ *Ceratitis*, Mac Leay (1835) ニ酷似セルモノナルガ一九一三年 Hendel 氏ハ臺灣産雌蟲四匹ヲ研究シ觸角第三節ノ形態ノ相違ニヨリテ新屬トナセリ小官等ハ多數ノ標本ニツキ調査研究シタルモ雄蟲モ亦殆ンド雌蟲ト同様ノ觸角ヲ有シ確カニ新屬トスルノ價値アルモノト認メ同氏ノ意見ノ正シキヲ知リ之ニ從フコトトセリ

本蟲ハ臺灣固有種ニシテ南ハ恒春地方ヨリ北ハ臺北宜蘭ニ至ルマデ至ル所ニ産出スルモ東海岸ハ不明ナリ極メテ普通ナル種類ナリトス

成蟲ノ記載(雄)

頭部ハ黃色複眼ハ大ニシテ赤黃色、單眼ハ黃褐其ノ周圍ハ黑褐ナリ剛毛ハ黑色ニシテ後頭ニ存在セル垂直毛ハ (Vertical bristles) ハ大ニシテ二對存在シ内側ノ一對ハ頗ブル長大ナリ、後垂直毛 (Post vertical) ハ一對存在シ單眼毛ハ大ニシテ觸角ノ基部ニ達ス、複眼ノ内縁ニ平行シ額ニ五對ノ剛毛アリ上方ノ二對ハ上外方ニ向ヒ其ノ下位ニアルモノ特ニ長大ナリ、下方ノ三對ハ内下方ニ向ヒ下位ノ二對ノ間ノ距離ハ他ノモノトノ距離ヨリハ僅カニ短カク最上ノ一對ハ特ニ長大ナリ、頬ニハ一箇ノ大ナル黑色剛毛アリ、尙複眼ノ後方ナル後頭ニハ十七對ノ小剛毛列アリ内最下ノ二對ハ甚ダ小ナリ、觸角ハ帶褐黃色第三節ノ前縁ハ殆ンド直線的ニシテ其先端ハ圓カラズシテ尖レリ端刺ハ羽狀ヲナシ二節ヨリナリ羽狀毛ハ黑シ

胸部 黄色ニシテ細微ナル黄毛ヲ装フ前胸脊ニハ三條ノ灰黒縦線アリ中央ノモノハ後胸脊ノ中央ニテ左右ニ分レ兩側ノモノト合シW字形ヲナシ廣ク灰黒トナル前胸脊ノ兩側ノ黒線ノ外側ハ一帶ニ灰黒トナルモ後縁ハ黄色ナリ中胸脊ノW字狀紋ノ外側ニハ之ニ接シテ大ナル半月形ノ灰黒紋アリ之等ノ斑紋ノ後方ハ黄白ナリ前胸ノ前方ニアル二對ノ剛毛ハ黄色其他ノ剛毛ハ黑色ニシテ顯著ナリ稜狀部ハ黄白シテ三條ノ大ナル黒褐帶縦走シ中央ノモノハ後端ニ達セズ四本ノ長大ナル剛毛ヲ有ス尙中胸ノ側面ニ二箇ノ黒褐斑アリ後方ニ位スルモノハ稜狀部ノ基部ニ亘ガ
ル後胸脊ハ黒褐ナリ平均棍ハ黄白其先端盃狀ヲナス翅ハ透明第一脈ノ末端ト第二脈ノ末端トノ中間ヨリ第二脈ノ末端ニ達スル幅ノ灰褐帶ガ後横脈ヲ挾ミ第五脈ノ末端ヨリ第五第六脈ノ中間ニ達シ第四脈ノ此帶ニ挾マレタル部分ハ一帶ニ黄色ナリ第二脈ノ末端部ノ兩側ニ小透朋部ヲ殘シ第三脈ヨリ前方前記帶狀紋ヨリ外方ハ一帶ニ灰褐ナリ而シテ之ノ暗斑ハ第四脈ト第三脈トノ中間ニ擠ガル第二脈ノ末端ヨリ第四脈ノ末端ノ内方ニ達スル灰褐帶アリ縁紋ヲ挾ミテ第六脈ノ先端ニ達スル大灰褐帶アリ縁紋ノ基部ハ特ニ黒ク其ノ先端ノ半分ハ透明ナリ此帶紋ノ中縁紋ノ外後方ハ一帶ニ黄色ナリ尙翅底ニハ不規則ナル斑紋アリ

腹部 灰黄ニシテ尾端部ハ特ニ黄色ヲ呈ス各節ノ脊面ノ基ハ黒シ尾節ニハ剛毛多シ交尾器ハ大ナリ

肢ハ黄色中肢ノ脛節ノ末端ニ黑色ノ一刺ヲ具フ體長一分七厘内外翅ノ開張三分内外ニ達ス

雌蟲ハ體長二分二厘内外翅ノ開張三分五厘内外ニ達シ尾端ニハ長大ナル産卵管ヲ供ヘ黄褐色ニシテ基部ト末端トハ黒シ

卵子ノ記載

卵子ハ長サ五厘内外ノ細長キ棒狀ヲ呈シ兩端圓ク且ツ一方ニ僅カニ彎曲シ上端稍尖小ス、色ハ白ク模様ナシ

幼蟲ノ記載

體ハ黃色若シクハ汚黃色、體形圓錐狀ニシテ頭部尖リ尾端大ナリ前部氣門突起ハ盃狀ヲナシ十ニ内外ノ乳頭狀ノ突起ヲ有ス、後部氣門突起ハ左右共ニ三箇ノ腎臟形氣門ヨリナリ中央ノモノハ著シク下位ノモノノ方向ニ傾キ内端ハ之ニ近付キ外端之ニ離ル而シテ詳細ノ位置ハ附圖ニ就キテ見ルヲ可トス口腔内ノ鈎針ハ著大ニシテ牙狀ヲ呈シ黑色ナリ體長三分五厘内外

蛹ノ記載

黃褐若シクハ赤褐色ノ圍蛹ニシテ長楕圓形ヲ呈ス、羽化後ノ殻モ亦同様ノ色ヲ呈ス、長サ五厘幅其二分ノ一ヨリ僅カニ小ナリ

經過習性

成蟲ハ周年本島至ル所ニ存在シ各種筍ノ幼キモノノ籜ノ内面ニ籜ノ上縁ヨリ夫ノ長キ産卵管ヲ挿入シテ數箇乃至十數箇ノ卵子ヲ産附ス、卵子ハ二三日ニシテ孵化シ(夏季)幼蟲トナリ漸次節ノ部ニ移リ茲ニ喰入シ先ヅ節ノ上下ヲ小蠹蟲ノ幼蟲ガ材木ニ穿孔スルガ如クニ縱横ニ穿孔喰害シ之ヲ腐敗セシムルニ至ル、幼蟲ハ多クノ場合縱ニ即チ筍ノ長軸ニ竝行シテ存在ス被害ノ甚ダシキ筍ハ六七寸伸長シタルママ腐敗シ籜ノミヲ殘シ所謂爛筍トナルモ然ラザル場合ニハ十數尺ノ長キニ伸長シ風等ノ爲メニ節ノ所ヨリ折レ地上ニ落下シ所謂死尾竹ヲ殘スニ至ル幼蟲老熟スレバ

地上ニ落下シ地下ニ蛹化ス

本蟲ハ周年筍ニ害ヲ加フルモノナルヲ以テ筍ノ害蟲トシテ重要ナルモノナリ、筍移出上害蟲ガ問題トナルトスレバ必スヤ本蟲タルベシ、柑橘ハみかんこみばヘノ爲メニ胡瓜西瓜ハラリみばヘノ爲メニ検査所ヲ騷ガセタルガ生筍移出漸次ニ盛大トナラバ又々みばヘノ一種ナル本蟲ノ爲メ嚴密ナル注意ヲ拂ハルベク誠ニ實蠅ハ厄介ナルモノト云ヒツベシ

驅除豫防法

本蟲ノ害ヲ免レントスルコトハ極メテ困難ナルモ食用ニ供スル目的ニテ栽培スル筍ニ對シテハ左ノ方法ヲ應用スルヲ可トス

一、竹ノ落葉塵芥等ヲ成ルベク多ク竹林上ニ推積散布シ筍ノ上端漸ク其上ニ顯ハレタルモノヲ直チニ掘リ起サバ本蟲産卵ヲ免レ得ベシ

二、普通ノ筍ニテモ採集後七日乃至十日ヲ經タルモノナレバ容易ニ被害ノ有無ヲ判別シ得ベク四五日後ノモノナレバ二硫化炭素ニテ燻殺シ得ベシ

三、幼蟲及蛹ハ二硫化炭素ニテ十二時間以上燻蒸スレバ必ラズ死ス

然レドモ林業上ニ應用シ得ベキ換言スレバ竹材若シクハ筍干製造ノ目的ヲ以テ竹林ヲ營ムモノニ對シテハ適當ナル驅除豫防法ナシ今後ノ研究ニ待タザルベカラズ

引用書類 Supplementa Entomologica No. 11. 1913.

Bezzi:—Memoirs of the Indian Museum. Vol. III, No. 3. 1913.

四、ひげながへりかめむし

學名 *Notobitus meleagris* Fab.

分類學上ノ位置 半翅目 綠椿象科

體ハ暗褐ニシテ點刻多ク光線ノ工合ニヨリテ紺色ヲ現ハス、觸角ハ殆ンド體ト等長、第四節ノ基部及末端ハ赤黃色、觸角砧ハ赤褐ナリ、口吻ハ長ク中肢ノ基節ニ達シ複眼ハ暗赤色、單眼ハ鮮紅色ナリ、單眼間ノ距離ハ複眼ト單眼トノ距離ニ殆ンド等シク、單眼ニ外接シテ凹所アリ、前胸脊ノ前緣ニ近ク一橫溝ヲ具ヘ後緣ハ圓ク餘リ突出セズ、半翅鞘ノ縱脈ハ判然シ膜質部ハ稍銅色ノ光澤ヲ有シ、尾端ヲ越ユ後翅ハ小ニシテ尾端ニ達セズ透明ナレドモ光線ノ工合ニヨリ藍色光澤ヲ發ス、腹脊ハ紺色、尾端ヨリ第二第三第四ノ三節ノ側方ニ近ク淡青色ノ斑紋アリ、跗節、前中脛節基部ヲ除ク及同腿節ノ末端及基部ノ一紋後肢脛節ノ先端ハ黃色ナリ、前中腿節ノ內面及後肢脛節ノ內面ニハ小齒ヲ列ネ後肢腿節下ニハ長大ナル銳齒ヲ列シ、其中中央ニアルモノハ特ニ大ナリ、後肢腿節ノ上面ハ小突起物ヲ散在ス、體長八分内外ニ達ス

卵子ノ記載

卵子ハ茶褐色ヲ呈シ光澤アリ、上面ヨリ見レバ舟形ヲ呈シ、側面ヨリ見レバ三角形ヲナシ、側面ニハ網目狀ノ模様アルモ前後上下ハ滑澤アリ、上面ノ前端ニハ橢圓形ノ蓋狀部アリ、孵化ニ際シ之ヲ開キ幼蟲出ツ、長サ七厘幅三厘高サ五厘ニ達ス

幼蟲ノ記載

觸角及口吻ハ成蟲ノ如ク、頭部ハ黒ク其脊面ノ周緣ハ赤褐ナリ、前胸脊ハ黒ク其前緣及側緣ハ黃色ナリ、稜狀部ハ黒ク腹ハ灰黃色ニシテ暗褐ノ斑紋アリ、肢ハ黃色、腿節及ビ後肢ノ脛節ハ暗黃乃至

暗褐ナリ、翅基ハ黄色ナリ

經過習性

雌蟲ハ主ニ卵子ヲ筍ノ籜上ニ十數箇乃至二十數箇ヲ羅列シテ産附ス之ヨリ孵化シタル幼蟲ハ群棲シテ汁液ヲ吸收シ運動活潑觸角ヲ高ク上ニ上グ筍ノ可ナリ伸長スルニ至ルマデ換言スレバ若竹トナルマデ加害ス春季ヨリ秋季ニ至ルマデ絶ヘズ加害スルモ經過尙未ダ明カナラズ

驅除豫防法

明カナラズ目下ノ所經濟的驅除豫防法ナシ移出筍ニ對シテハ卵子ヲ取り去ルベキナリ

引用書類

Distant:—Fauna of British India. Rhynehoka.

松村松年 新日本千蟲圖解 第一

五、摘 要

一、本邦ニ於テ末ダ筍ノ害蟲ヲ調査シタルモノアルヲ聞カズ然ルニ林業上筍ノ害蟲ヲ調査スル必要アルヲ認メザルベカラズ特ニ臺灣ニ於テ然リトス

二、臺灣ニ筍ノ害蟲トシテ列舉スベキモノ三アリたいわんおほざうむしたけのこみばへ及びげながへりかめむし之ナリ

三、以上三種ハ共ニ尙未ダ本邦學者間ニ害蟲トシテ知ラレザルモノニ屬ス依テ之ヲ茲ニ發表セントスルナリ

附圖々解

第一版 *Cyrtotrachelus longipes* Fab. たいわんおほぞうむし

- 1 成蟲(♂)
- 2 成蟲(♀)ノ尾端及産卵管
- 3 成蟲(♀)ノ前肢ノ跗節
- 4 成蟲ノ(♂)交尾器
- 5 成蟲(♀)ノ頭部
- 6 蛹
- 7 擬繭
- 8 幼蟲
- 9 幼蟲ノ口器(脊面)
- 10 幼蟲尾端(脊面)
- 11 卵子

第二版 *Acroceratitis plumosa* Hendei たけのこみばへ

- 1 成蟲(♂)
- 2 成蟲(♂)ノ觸角
- 3 成蟲(♂)ノ交尾器
- 4 成蟲(♀)ノ腹部及産卵管
- 5 卵子
- 6 幼蟲
- 7 幼蟲ノ前部氣門突起
- 8 幼蟲ノ口腔内ノ鈎針
- 9 幼蟲ノ後部氣門突起
- 10 蛹
- 11 成蟲(♂)ノ交尾用鑷子ノ幾丁質部

第三版上圖 *Notobius melagris* Fab. ひげながへりかめむし

- 1 成蟲(♂)
- 2 成蟲頭部(♂)
- 3 成蟲尾端(♂)
- 4 幼蟲第二齡
- 5 卵子
- 6 幼蟲第四齡

第三版下圖

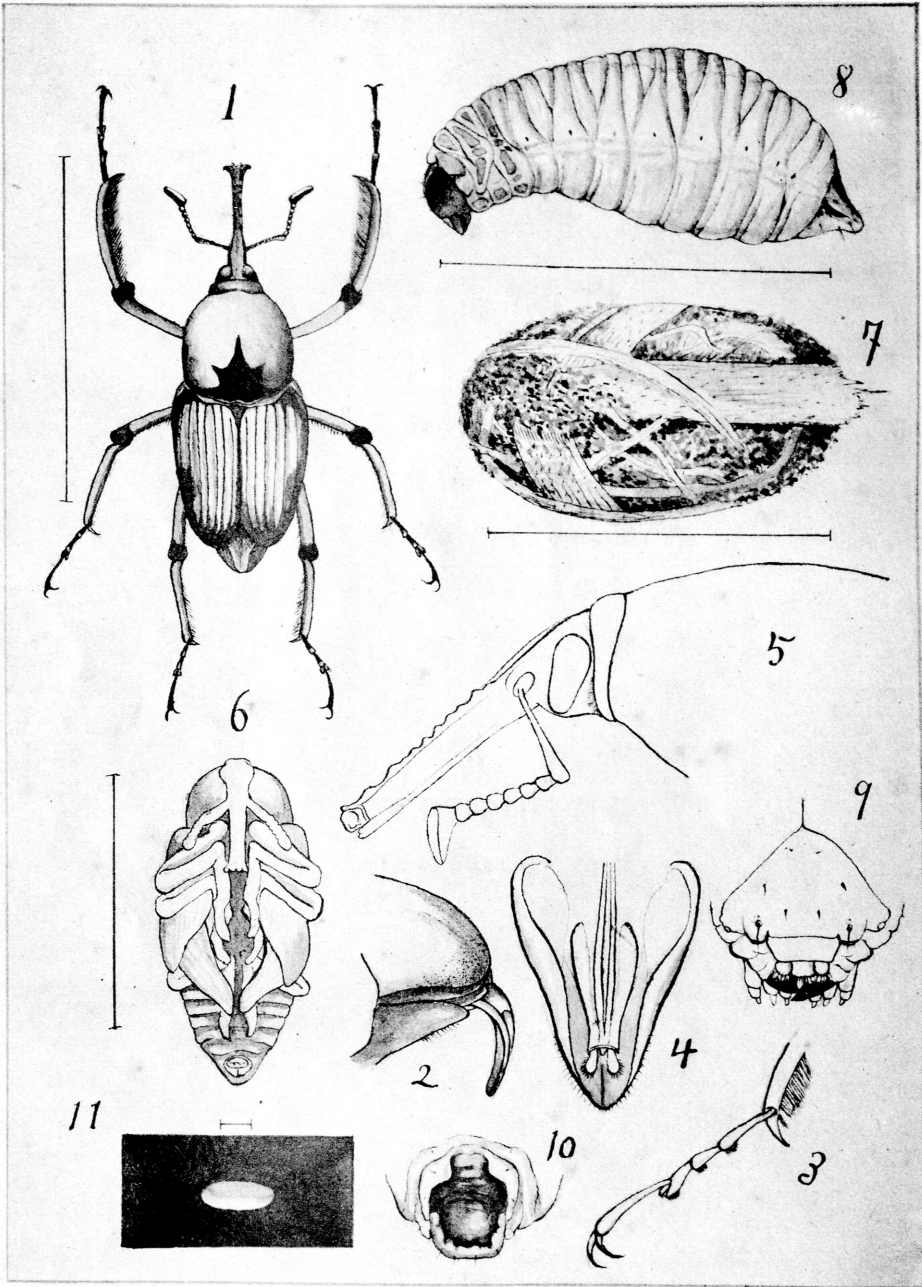
たいわんおほざうむしノ産卵シタルばあはむちくノ筈
a. 産卵局部

第一版

Cyrtotrachelus longipes Fab.
かいわんおほざらむし

1. 成蟲(♀)
2. 成蟲(♀)ノ尾端及産卵管
3. 成蟲(♀)ノ前肢ノ跗節
4. 成蟲(♂)ノ交尾器
5. 成蟲(♀)ノ頭部
6. 蛹
7. 擬 繭
8. 幼 蟲
9. 幼蟲ノ口器(脊面)
10. 幼蟲ノ尾端(脊面)
11. 卵 子

版 一 第



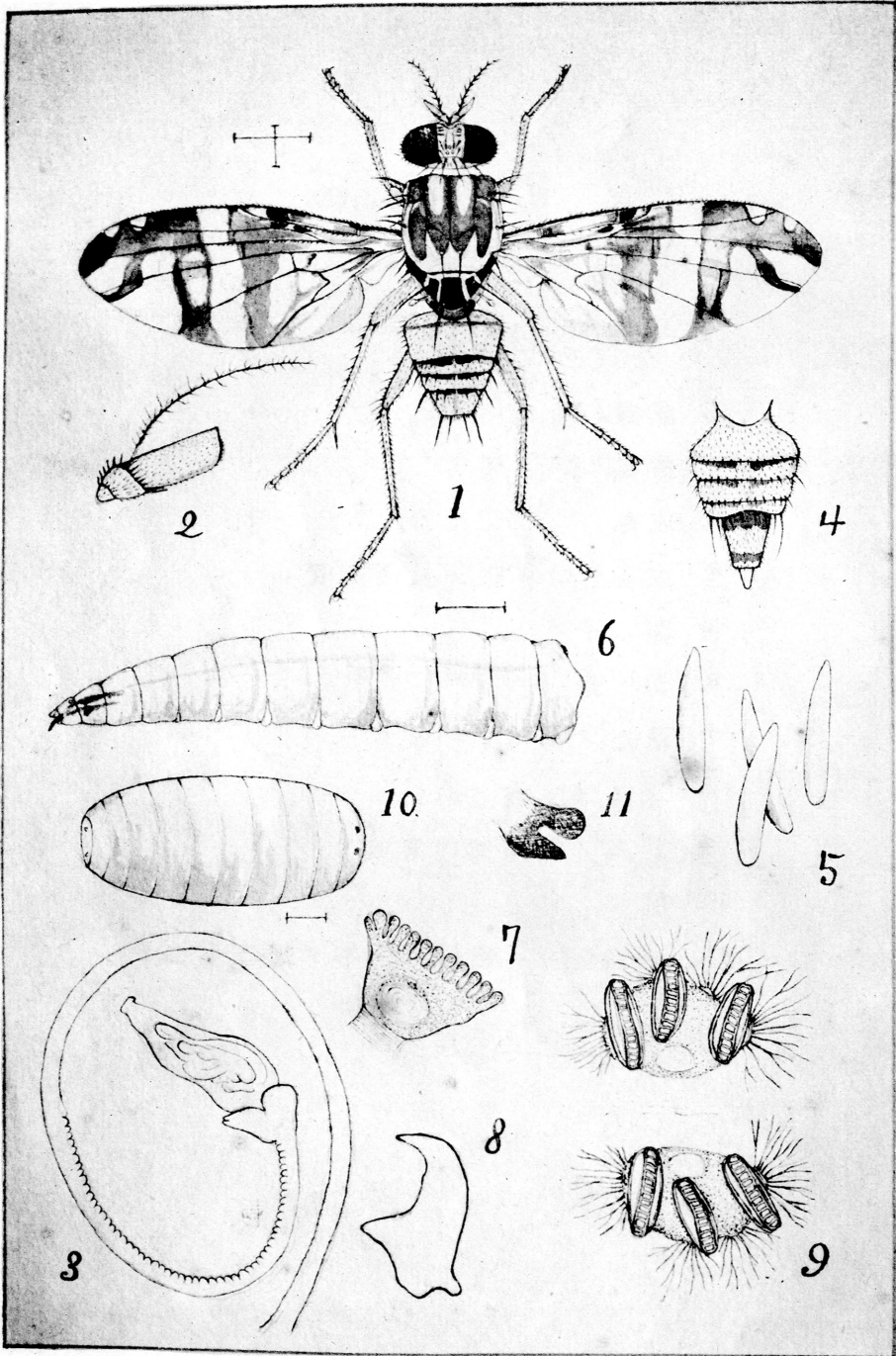
第 二 版

Acroceratitis plumosa Hendel.

たけのこみばへ

1. 成蟲(♂)
2. 成蟲(♂)ノ觸角
3. 成蟲(♂)ノ交尾器
4. 成蟲(♀)ノ腹部及産卵管
5. 卵 子
6. 幼 蟲
7. 幼蟲ノ前部氣門突起
8. 幼蟲口腔内ノ鈎針
9. 幼蟲ノ後部氣門突起
10. 蛹
11. 成蟲(♂)ノ交尾用鐮子ノ幾丁質部

版 二 第



第三版 上圖

Notobitus meleagris Fab.
ひげながへりかめむし

1. 成蟲(♂)
2. 成蟲頭部(♂)
3. 成蟲尾端(♂)
4. 幼蟲第二齡
5. 卵子
6. 幼蟲第四齡

第三版 下圖

Cyrtotrachelus longipes Fab.
たいわんおほざうむしノ加害筈

(ばあはむちくノ筈ノ先端)

- a. 産卵局部

版 三 第

